

報告事項 ウ

令和5年度英語力向上事業（4技能型英検 I B A）の結果について

令和5年度英語力向上事業（4技能型英検 I B A）の結果について、別紙のとおり報告します。

令和5年12月27日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

令和5年度英語力向上事業（4技能型英検IBA）の結果について

令和5年12月27日
小中学校課

令和5年6月12日（月）から令和5年7月28日（金）までの間に、中学校3年生（義務教育学校9年生）を対象として実施した4技能型英検IBAの結果について、以下のとおり報告します。

今年度、初めて中学校3年生（義務教育学校9年生）を対象として実施した4技能型英検IBA（※1）において、リーディング・リスニングのテストでは47%の生徒が、ライティング・スピーキングのテストでは55%の生徒が、英検3級（※2）レベルに達しているという結果が得られた。また、リスニングの平均CSEスコア（※3）は英検3級レベルを上回り、その他の技能の平均CSEスコアも英検3級に近いことから、中学校3年生前半の段階で、生徒全体の英語力が順調に育成されている。この結果を踏まえ、今後もさらなる英語力向上施策を推進していく。

※1 4技能型英検IBA（Institution Based Assessment）： 日本英語検定協会（以下「英検協会」）が実施する、英語力を、読むこと（リーディング）、聞くこと（リスニング）、書くこと（ライティング）、話すこと（スピーキング）の4技能で測ることができるテスト。結果は、技能別のスコアや英検級レベル等で示されるが、実際の英検資格の取得とはならない。

※2 英検3級：国が示す中学卒業段階での英語力の指標（CEFR A1）の例として示される外部試験資格の1つ
国の第4期教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）では、生徒の英語力について、令和9年度までに、中学校卒業段階で、CEFR A1 レベル相当（英検3級相当）以上を達成した生徒の割合の目標値を6割以上とし、加えて全ての都道府県・政令指定都市において、同指標を達成した生徒の割合を5割以上にすることを目指すことが示されている。

※3 CSEスコア（Common Scale for English）：英検協会によって作成された、英語力を示す尺度

1 受験実績

(1) 受験校数 57校 / 57校（公立中学校・義務教育学校）

(2) 受験者数（中学校3年生・義務教育学校9年生）

・リーディング・リスニング 3,956名

・ライティング・スピーキング 3,958名

※「リーディング・リスニング」と、「ライティング・スピーキング」の2種類のテストをそれぞれ実施しているため、テストによって受験者数が異なる。

(3) 受験期間 令和5年6月12日（月）～令和5年7月28日（金）

2 受験結果概要

技能	平均CSEスコア（※）	英検3級レベル以上の割合	出題分野別傾向等
リーディング	368.4	47%	語句の空所補充の正答率が高い。長文読解（まとまった英文を読んで必要な情報を理解すること）に課題がある。
リスニング	355.2		対話を聞いて内容を理解する問題の正答率が高い。短文を聞いて内容を理解することに課題がある。
ライティング	345.2	55%	身近なことにに関する質問に対して自分の考え等を書く問題で、内容の適切さについての全体での正答率が高い。正しい文法で書くことに課題がある。
スピーキング	349.4		身近なことにに関する質問に対して即興で答える問題の正答率が高い。初見の英文を音読することに課題がある。

※ < CSEスコア（Common Scale for English）について >

・技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）別に表記することで、技能ごとの英語力を把握することが可能。また、継続的に活用することで、技能ごとの英語力の伸長度を把握することが可能。

（参考）CSEスコアによる、英検合格レベル判定基準

	準1級	2級	準2級	3級	4級	5級
4技能総合	2304	1980	1728	1456		
リーディング	598	511	448	379	330	236
リスニング	603	503	430	349	292	183
ライティング	591	506	444	375		
スピーキング	512	460	406	353		

3 分析及び今後の方向性

- (1) 対話を聞いて理解する問題や質問に対して即興で答える問題の正答率が高かったことから、日々の授業で、教師と生徒や生徒同士の英語によるやり取りが行われる等、各学校において、現行の学習指導要領の趣旨に基づいた授業改善が進みつつあると考えられる。
 - (2) まとまった内容を読んで理解することや、質問に対して適切な英文を書くことに課題がある。読むことにおいては、一語一句の理解に終始するのではなく、必要な情報や概要、要点を把握する読み方について、また、書くことにおいては、話すことと関連させ、目的、場面、状況などに応じて適切な内容を正確な英語で表現することについて、指導を充実させる必要がある。
 - (3) 令和5年度全国学力・学習状況調査（令和5年4月18日実施）においては、中学校英語の正答率は42%で、全国平均45.6%を下回った。全国学力・学習状況調査は、学習指導要領に示される「知識及び技能」及び「思考力、判断力、表現力等」を図る問題で構成されているが、英検I B Aは、学習指導要領の内容と関連はあるものの、「知識及び技能」に関する問題が多い。引き続き「言語活動を通じた指導」の充実を図り、生徒が、目的、場面、状況などに応じて英語を理解したり、適切に英語で表現したりする「思考力、判断力、表現力等」を育成する必要がある。
- 各学校で、英語教師等が日々指導や授業の改善に取り組んでいることが、本事業で、約5割の生徒に英検3級程度の力が身に付いている、という結果につながったと考えられる。今後は、生徒の英語力向上について、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、英語を理解したり適切に英語で表現したりする「思考力、判断力、表現力等」の育成をするため、引き続き本事業を活用して各学校での指導や評価を充実させるとともに、「言語活動を通じた指導」を柱として、授業改善を推進する。

4 令和6年度英語教育推進に係る取組（案）

鳥取県教育委員会では、県内全域での英語教育推進に係り、令和6年度も令和5年度に引き続き本事業に取り組み、定点と経年（伸び）の両面から生徒の英語力を把握することで各学校での指導と評価の充実を図るとともに、「言語活動を通じた指導」を柱とした授業改善を推進するため、県内全ての中学校・義務教育学校（後期課程）訪問や、各種研修会等を実施する。また、ネイティブスピーカーを講師としたスピーキング力向上講座を開催したり、授業でオンライン英会話を実施する自治体に受講料の一部補助を行ったりして、実際に生徒が英語を活用する場を学校内外で創出する。令和6年度の事業案等については以下の通りである。

(1) 生徒の英語力向上

①外部試験（英検I B A）を活用した英語力向上事業

県内全ての公立中学校3年生に4技能型、1、2年生に2技能型（読む・聞く）の英検I B Aを実施することで、英語力向上及び英語学習への意欲向上を図る。結果の分析や活用についての教員向けの説明会等を開催し、授業改善を支援する。

(2) 教員の指導力・授業力向上

①中学校・義務教育学校（後期課程）外国語（英語）授業訪問

鳥取県教育委員会外国語担当指導主事等が、県内全ての中学校・義務教育学校（後期課程）を訪問して、授業参観及び事後協議を行う。令和6年度は「言語活動を通じた指導」の充実について、具体的な指導事例等を示しながら各学校での授業改善を推進する。

②出かける学びの改革推進室

希望する学校や教育研究団体に鳥取県教育委員会外国語担当指導主事等が出向き、ニーズに応じた研修会等を行い、授業づくり及び授業改善を支援する。

③各種研修会等

英語4技能統合型の授業改善を推進するための各種研修会等を実施する。

- ・定期考査研修会（年2回開催）
- ・教育課程研究集会
- ・英語教育推進フォーラム
- ・指導力向上ゼミナール 等

④英語教師等英語力向上事業

英語担当教員等の英語力向上のため、教師の外部試験受験費用を支援するとともに、語学学習機会を創出する。

(3) 生徒の英語使用機会の充実

①Tottori English Challenge Program 2024（中高生対象）

夏季休業中に3日間にわたる講座を開催し、スピーキング力向上を図る。

②オンラインスピーキング事業への補助

中学校でオンライン英会話レッスンを導入する市町の受講料を補助することで、「話すこと」の力を育成する。